

No. 14

場 所	東中野三丁目(鉄道用地内)	樹 木 医		診 断 日	2025 年 11 月 6 日
樹 木 番 号	22	樹高(H)=9.0m	幹周(C)=249 cm	枝張(W)=7.0m	
樹種名	サクラ	植 栽 形 態	☐ 単独樹 ☐ 植栽帯 ☐ 緑地内 ☒ その他		支 柱 ☐ 良好 ☒ なし ☐ 破損

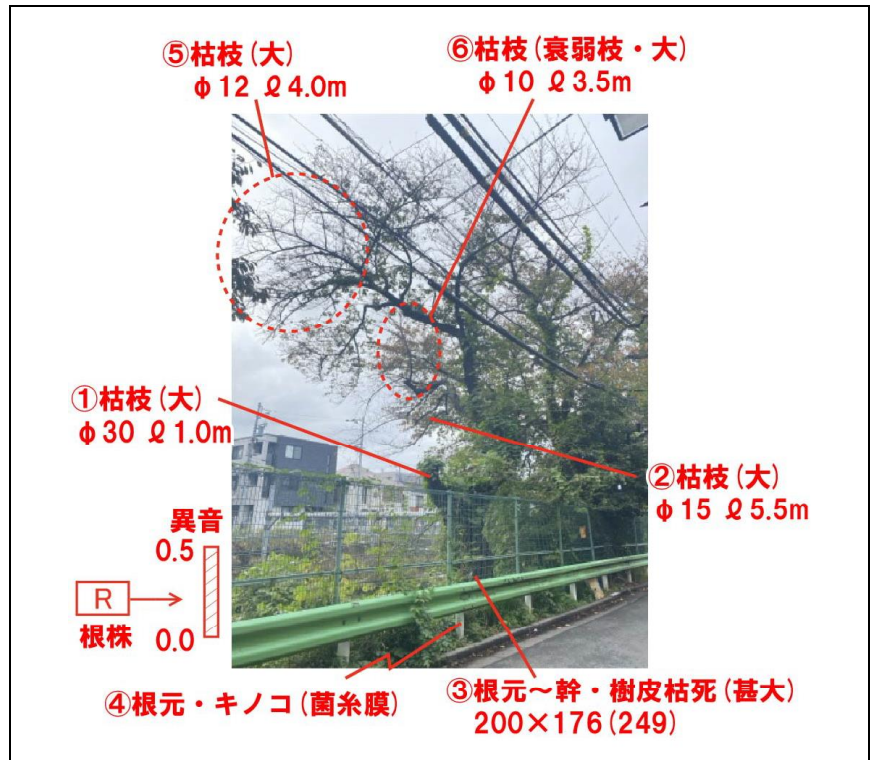
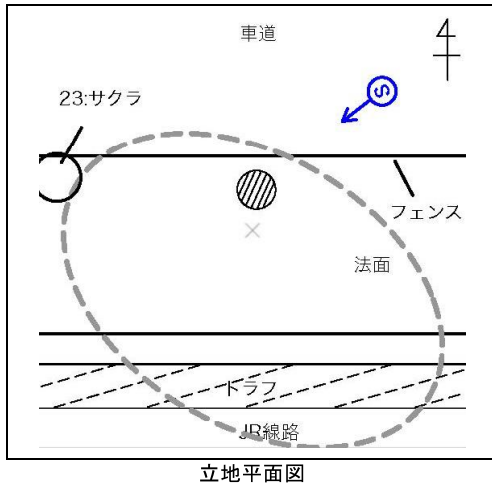
活 力 診 断	樹勢	枝の伸長量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等			良 ← ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4 ☐ 5 → 不良		
	樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等			☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4 ☐ 5		
	所見	樹勢：樹冠部が衰退している。葉量が少ない。 樹形：枝数が少ない。					
	活力判定	☐ 健全か健全に近い ☐ 注意すべき被害が見られる ☒ 著しい被害が見られる ☐ 不健全					
	診断内容 \ 部位	根元		幹		骨格となる大枝	
	樹皮枯死・欠損・腐朽 (周囲長比率)	☐ なし ☐ 1/3 未満 ☒ 1/3 以上		☐ なし ☐ 1/3 未満 ☒ 1/3 以上		☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	
	芯に達していない開口空洞 (周囲長比率)	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上		☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上		☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	
	芯に達した開口空洞 (周囲長比率)	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上		☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上		☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	
	上記3項目のうち 最大被害部の周囲長比率	被害部幅 176	被害部周囲長 249	=	周囲長比率 70.7%	被害部幅 176 / 被害部周囲長 249 = 周囲長比率 70.7%	枯枝 ☐ なし ☒ あり(φ15cm 25.5m) スガノカット ☒ なし ☐ あり()
	キ ノ コ (子 実 体)	☐ なし ☒ あり(菌糸膜)		☒ なし ☐ あり()		☒ なし ☐ あり()	
木 槌 打 診 (異 常 音)	☐ なし ☒ あり(G.L.0-0.2m)		☐ なし ☒ あり(G.L.0.2-0.5m)		☒ なし ☐ あり()		
分 岐 部 ・ 付 根 の 異 常	☒ なし ☐ あり()		☒ なし ☐ あり()		☒ なし ☐ あり()		
胴 枯 れ な だ の 病 害	☒ なし ☐ あり()		☒ なし ☐ あり()		☒ なし ☐ あり()		
虫 穴 ・ 虫 フ ン ・ ヤ ニ	☒ なし ☐ あり()		☒ なし ☐ あり()		☒ なし ☐ あり()		
根 元 の 揺 ら ぎ	☒ なし ☐ あり()		建築限界越え 車 道 側		建築限界越え 歩 道 側		
鋼 棒 貫 入 異 常	☒ なし ☐ あり()		幹 ☒ なし ☐ あり		幹 ☒ なし ☐ あり		
巻 き 根	☒ なし ☐ あり()		()		()		
ル ー ト カ ラ ー	☒ 見える ☐ 見えない()		()		()		
露 出 根 被 害	☒ なし ☐ あり()		枝 ☒ なし ☐ あり		枝 ☒ なし ☐ あり		
不 自 然 な 傾 斜	☒ なし ☐ あり()		()		()		
所見	枯枝(大)あり。同様の被害多数あり。 枯枝(大)あり。 根元から幹の樹皮枯死(甚大)あり。 根元のキノコ(菌糸膜)あり。 枯枝(衰弱枝・大)あり。 木槌打診音異常(G.L.0-0.5m)あり。 要機器診断(根株)。						
外 観 診 断	判定・処置 \ 部位	根元		幹		骨格となる大枝	
	健全か健全に近い	☐		☐		☐	
	注意すべき被害が見られる	☐		☐		☐	
	著しい被害が見られる	☐		☐		☒	
	不健全	☒		☒		☐	
処 置	剪定が必要		☐		☐		
		機器診断が必要		☒		☐	
外観診断 判定	☐ A：健全か健全に近い ☐ B1：注意すべき被害が見られる ☐ B2：著しい被害が見られる ☒ C：不健全						
判定 理由	不健全。根元から幹にかけての樹皮枯死の被害が甚大であり、地上部の大部分が枯死しているため、回復の見込みがない。						

機 器 診 断	測定データ 1	部位(根株)	腐朽空洞率： 8.3 %	t/R 率 ① 0.809	② 0.300	③ 0.741	④ 1.000
	測定データ 2	部位()	腐朽空洞率： %	t/R 率 ①	②	③	④
	所見	〈根株診断〉 根株に大きな腐朽空洞は認められない。ただし、②方向では、腐朽空洞化の進行により、健全材が薄くなっている。					

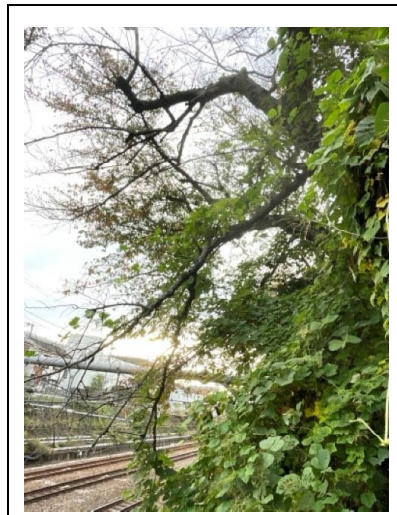
総合判定	☐ A：健全か健全に近い ☐ B1：注意すべき被害が見られる ☐ B2：著しい被害が見られる ☒ C：不健全
判定理由	不健全。根元から幹にかけての樹皮枯死の被害が甚大であり、地上部の大部分が枯死しているため、回復の見込みがない。 機器診断の結果、現状では根株に腐朽は見られないが、頂部の衰退が著しいため樹高低減を要する。倒伏の危険性は小さいが、幹の大部分が枯死しており回復の見込みがないため、伐採も含め今後の管理方針を検討する必要がある。

No. 14

処置 内容	必要性	☐ なし ☒ あり	緊急性	☒ なし ☐ あり
	☐ 要観察(長期周期) ☐ 要観察(短期周期)			
	☐ 剪定(枯枝 ☐ 腐朽枝等 ☐ 支障枝 ☐ 風圧軽減 ☐ スタブカット ☐ 巻き根)			
	☐ 樹体保護() ☐ 植栽基盤の改善() ☐ 根上がり() ☐ 病虫害防除() ☒ 更新(撤去・植替えを要する。) ☐ その他()			
摘	頂部の衰退が著しいため樹高低減を要する。倒伏の危険性は小さいが、幹の大部分が枯死しており回復の見込みがないため、伐採も含め今後の管理方針を検討する必要がある。			



①枯枝



②枯枝



③根元から幹の樹皮枯死

その他特記事項

次回診断	☐ フォローアップ診断(☐ 要機器診断 測定部位:) ☐ 外観診断	
次回診断時期	☐ 1年後 ☐ 2年後 ☐ 3年後 (年度)	
位置座標(WGS84)	緯度 35.706309	経度 139.681265

樹木番号:22



④根元のキノコ(菌糸膜)



⑤枯枝



⑥枯枝(衰弱枝)